

~団長あいさつ~

財団法人盛岡国際交流協会 山崎 泰弘

団長 = “ THE HOST ” ?

私達19名の第17回中学生ビクトリア研修団は、行きの飛行機の4時間遅れ以外は、ほぼ予定通りの日程で盛岡へ帰ってくる事ができました。

今回のホスト校になったセダーヒルミドルスクールの初日、用意されていた私の名札には「HIRO THE HOST」とあり、主催者、もてなす側の主人ということで、ゲストではないのだと気持ちを新たにしたので今でも鮮明に思い出します。幸運にも短い期間で新たな人間関係を構築した15名の中学生と3名の中学英語教師のおかげで、私は団長として新たな経験へのサポートと安全な旅に気持ちを集中する事ができました。そして今年が姉妹都市交流の25周年という節目の年であることは、ビクトリア市、盛岡市の友好協会の方々のいい時にだけ関わらず、大変な時期のいろいろな努力の上に成立していることが大きく、同時に公民のバランスがうまくいかなければ、到底成し得ない交流であることを実感しました。

ブチャートガーデンにそれぞれの季節にそれぞれの花を咲かせる種のように、15名の中学生は一人ひとりの中にたくさん種をこの25周年交流事業から持ち帰ることができたと団長として嬉しく思います。特にセダーヒルでの最終日の430名を前にしてのプレゼンテーションは「ワンダフル ジャパニーズ クイズ ショー」と大絶賛の中、ビクトリアの中学生、盛岡の中学生が両方とも、共通の満面の笑みで喜びを分かち合えた場面は、目頭が熱くなるほどの感激でした。プレゼンの時間が60分から45分に予定が変更だったにもかかわらず、大森先生の声かけ、千葉先生のタイム計測、芳門先生のPC操作と3人の先生方の抜群なチームワークのおかげで、15名の団員は伸び伸びとプレゼンテーションを自から楽しんでいました。この時、私は安心して見守りかつ、セダーヒルの先生方と談笑しながら「THE HOST」になれた実感に浸っていました。

心に残った事は、いろいろな場面で友好協会のマックレディーご夫妻、ディック中村氏、バーバラキャメロンさん方の誰かの姿が必ずあったことです。盛岡でも田口会長ご夫妻、坂下ご夫妻がされているように。今回、25周年に団長としてだけでなく、研修アドバイザーとしてより深く、この姉妹都市交流の一部を担えたことを本当に嬉しく思うと共に、2001年の世界同時多発テロ時の研修中止、ビクトリア市でのストによる予定変更、台風による大幅な日程変更、昨年のインフルエンザによる一人の団員の研修参加断念といろいろな困難を乗り越えての上、今年の研修に参加できた事に感謝し、盛岡、ビクトリア両市に架かる、新渡戸博士の太平洋の橋による今後の更なる25年の交流が続くことを祈り、すべての関係した方々に感謝し、報告とさせていただきます。

~引率教諭~

盛岡市立玉山中学校教諭 千葉 進

PPP (Purely, Positive, Person)

今回が初となる一人だけのホームステイ。海外研修の引率はこれまでに何度かありました(オーストラリア、ニュージーランド)がいずれも一人ではありませんでした。やはりその国を肌で感じるにはホームステイをし、衣食住を知ることではないでしょうか。

ホームステイ先に着くと、かわいい猫2匹がベッドの上で自分を迎えてくれました。お世話になったホームステイ先のモロー家は、不動産会社勤務のブレイクと、奥さんと英語の高校教師ジョイス、24歳のダニエル(大学生)22歳のジル(大学生)姉妹 《二人ともとても勉強熱心でした》4人の家族と、28歳のコロンビア人で高校英語教師アレクサンダー(生徒の引率で1ヶ月のホームステイ)、16歳のドイツ人留学生エイドリアン(高校生)という大家族でした。

モロー家は親日家で、初日の夕飯では何と白米と自庭でとれたての卵。生卵に醤油(なんとキッコーマン醤油が冷蔵庫の中に)をかけて卵かけご飯を披露した時のみんなの唖然とした顔は忘れられません。二人の留学生にもおすそわけしましたが、一口でフォークが止まってしまいました。

ジョイスは常に前向きで、自分が学校からの帰り道で2度も道に迷ったときには「道に迷ったおかげでたくさんの人と出会うことができた。そのことがとても大切だ。」と諭されました。その時に Always be purely, positive, person という言葉をジョイスからかけてもらいました。そしてパソコンにも堪能で、高校の授業方法についても教えていただくことができました。(ネット環境が整っていてWifiが部屋で使え、おかげで iPhone 4 によるネット、メールを使うことができました。)

今回貴重な体験をすることができたチームレイボー（5名）を含めた私たち19名は自分の学校の生徒たちはもとより、盛岡市民の方々に何らかの形で還元することが責務であると思います。（できることから始めてみましょう！ PPPで）

おわりにカナダの大自然にいだかれた美味しい空気、食材、暖かく見守ってくださったホストファミリーをはじめとした現地の方々の深い思いやりに感謝したい。

今回の研修に尽力してくださったみなさまとその機会を与えてくださった方々に感謝しています。本当にありがとうございました。

盛岡市立松園中学校教諭 芳門 淳一

一期一会 ~多くの出会いに感謝~

Communication is important 2年生の英語の教科書に掲載されている1文である。この言葉を研修を通して改めて感じた。今回の研修で私は多くの人に出会った。研修メンバーはもちろんのこと、研修をサポートしてくださった方々、現地でお世話してくださった方々、ホストスクールの先生方、ホストファミリー。私にとってこれらの出会いは大きなものとなった。

研修、メンバーの大きな成長。初めの頃はぎこちなく、お互いを探り合っていた。様々な活動を通し、コミュニケーションが図れるようになり、今ではお互い協力して活動できる仲となった。まずは話をしてみる。そして気持ちを伝えること。それが物事のスタート。言葉のキャッチボール、意思表示の大切さを事前研修やホームステイやカナダの学校でのプレゼンテーションを通してみんなもきっと感じた事だろう。

英語が話せることが重要なのではない。話そうと心がけることが大切なのだ。日本の中にも、世界中歩き回ったとしてもそれを覚えていてほしいと思う。

私は、エリザベスさん一家にホームステイさせていただいた。ホストファザーのマーレックさん、10歳の娘さんのエミリア、留学生3人（韓国、中国、メキシコ）の6人家族。当日、朝に私のホームステイが決まったため、家族のみんなは心の準備もなかったようだ。そのため、反応もいまいち。きっと留学生はとまどっていたのだと思う。最終日まで彼らとは多くを語れなかったことが残念だった。その分、私はエリザベスさん、エミリアと積極的にコミュニケーションを図った。カナダでの市バスの乗り方、子供の教育方針、留学生についてなどなど…。印象に残っているのは、エリザベスがエミリアと一緒に宿題をやっていたこと。国が違っても子は勉強から逃げようとし、親はしっかりやらせるようフォローする姿は微笑ましい。

出会いは人を成長させる。書ききれないことが多くあるが、この研修で私も多くのことを学んだ。このような機会を与えていただいたことに感謝したい。

盛岡市立見前南中学校教諭 大森 弘恵

My friend in Victoria

出発当日の盛岡駅で、26年間ビクトリア市との交流を深められてきた坂下さんから「一人でも多くの研修員がビクトリアで友達を見つけてこられるように」という励ましの言葉をいただいた。

自分自身がビクトリアでこのような出会いができ、わたしにとってビクトリアの友達、と呼べるような存在ができたことに、この研修の大きな意味があったことを改めて実感している。

セダーヒルミドルスクールにて、ステイ先のマザーと対面、待ち合わせの場所であった図書館に入るなり笑顔で声をかけられ、暖かい歓迎を受けた。

1日目の夕食でホストマザーと一緒にお祈りをしたが、その時の彼女の言葉は、日本に残してきた娘、息子たちを気遣う言葉、この研修がうまくいくこと、この先のわたしの家族の幸せを願う内容がこめられており、2歳と6歳の子供を日本へ残してきた私としては、本当にありがたい言葉であった。

共に生活をし、話しをする中で、ホストマザーと私との考え方の似通っていること、なるほどと思う点が多くあるということは、国や生活スタイルが違っても、人としての本質として大切なことが何かを考える良い機会ともなった。

「食事は少し多めに作ることにしているの。足りなかったという思いをしないように。でも食べ物は絶対に無駄にはしない。世界中には満足に食事を食べられない子どもたちがいるのだから。」

「あなたにはたった1週間のビクトリアの滞在だけけれど、2週間いたと同じくらいの体験をしていてもらいたい。できることがあるならなんでもしてあげたい。自分が人へ施せば、それ以上に自分へかえってくるものがある。」

るから。」

4泊という短いホームステイの期間、毎晩遅くまで、まるで母と娘、姉妹、友達のように趣味について、家族について、仕事について語りあった日々。

ビクトリア研修でこのような素敵な出会いができたこと。25周年という節目の年に、この研修に参加させていただけたこと。チャンスと勇気をくれた全ての人々に心から感謝したい。

~団員~

岩手大学附属中学校 和田 祐典

It s an honor to meet you

僕は、世界の色々な国々の人々の考え方や生活にとっても興味がある。だからそれらの人々とコミュニケーションをとって、色々なことで話してみたいと前から思っていた。それが、言葉の壁を越えたコミュニケーションならなおさらだ。

カナダでの僕のテーマは、英語圏の人々と如何にしてコミュニケーションをとるかだ。そのために僕は、うちわや、浴衣や、下駄などの日本の風俗を象徴するものやアニメのキャラクターがついた缶バッジ（これはアドバイザーに教わったものだ）を用意した。言葉は違っても僕が、彼らに受け入れてもらいたい気持ちを示す「とっかかり」にしたいと思ったからだ。もう一つ、僕が考えたのは、日本人としての礼儀を大切にすることだった。彼らも僕らと同様に、コミュニケーションに不安を持っているはずだと考えた。自分が自分の人柄を端的に示すのは、礼儀だと思ったからだ。ただし、僕は日本人なので日本式の礼儀を示すことを決めていた。

缶バッジはウケた。すぐにセダーヒルミドルスクールのみんなと仲良くなることができた。変な英語だったかもしれないが、言いたいことは伝えられたし、彼らから色々な話を聴けた。予備に持っていった「ポッキー」や「きのこの山」が必要なかったくらいだ。特に彼らが、日本人の僕の知らないような日本語の漫画の話をしてきたのには驚いた。

ホームステイ先では、カナダの習慣についてたくさん話が聞けた。なかなか上手く日本の事を説明できなかったのは残念だった。ただ、食事やペットメイクに対する感謝とお礼は欠かさなかった。盛岡に帰った後、父がホストマザーへ送ったお礼のメールの返信内容がとてうれしかった。

今回の研修で僕は、カナダの人達に僕を受け入れてもらう試みが成功したと確信している。国際交流コンテストで述べた通り、受け入れてもらいたい気持ちとそれを実践する勇氣、そして日本人としての尊敬の表し方が、カナダでも通じることを確信した。僕はこれからも、世界中の人々から色々な事を教えてもらいたいと思っている。僕からも日本のことを世界に伝えることができるような力を身につけたいと思っている。

岩手大学附属中学校 近藤 歌純

It s very good encounter

何もかもが初めてだったこの研修。海外へ行くのもホームステイをするのも全てが私にとっては初めてで、とても新鮮だったこの8日間。大きな期待、そして不安を抱いて出発した。そして私達が出会ったのは、自然豊かで温かい人々が居るカナダだった。そんな素晴らしい場所で私達は数えきれない程の人や出来事に会った。

その中でも私の一番の思い出は、ホームステイだ。

私は、1人でホームステイだった。1人だと心細くて不安は大きく緊張していた。けれどホストファミリーと生活をしていくうちにその不安は大きな期待と喜びに変わっていた。ホストチューデントのロウナンや中国からの留学生のマンガとは毎日のように遊んだ。庭にあるおおきなトランポリンは本当に楽しくてずっとやっていた。

夜に天の川の下で3人、騒ぎながら跳んだのも覚えている。

私は特別英語が話せるわけでもなかったが、ホストファミリーは毎日会話をしてくれて、本当に嬉しかった。ある時、みんなでバンドセットのようなゲームで遊んでいたら、「今度は歌純が歌って！」と言われ、全然知らないカナダの歌を歌った！？とても楽しい日々だった。楽しい日々の中で私は、たくさんのことを学び、成長することができた。

最終日の夜には、ロウナンの友達も遊びに来ていて本当に嬉しかった。お別れの時も、帰りたくないと思った。ホストファミリーは本当に温かくて家族のようだった。マンガはとても良い人で、最後の日、私の名前の中国語を教えてくれた。ロウナンはかっこよく、テンションが高くてすごく明るくなれた。ホストファミリー、本当に

大好きでした！！

あつという間だったこの8日間。毎日のこりの日数を数えた日々。1秒1秒がとても新鮮で、今でもその思い出は鮮やかによみがえってくる。この研修、私は様々なことを感じ、学ぶことができた。今ではもっと世界を見たい！と思い、視野を広げることができた。

一生に一度のこのすばらしい経験、人生の宝物だ！

この機会を与えて下さった事務局、先生方、親、そして団長、団員のみなさん、本当に感謝でいっぱいです。

盛岡市立松園中学校 佐々木 玄

人生初の海外研修

僕にとって、人生初となったビクトリア海外研修はとても有意義で貴重な体験でした。

事前研修が始まって、市内の中学校の英語が得意な人が集まる集団の中、自分についていく事ができるのかという不安や緊張が体から湧いてきました。

でも、何回かの事前研修を通していくうちにみんなと友達になり、不安や緊張など無くなっていました。そしてここに集まった生徒15人は英語が得意なだけでなく、一番は英語が大好きだったということが分かりました。そしてついに当日。やっぱり不安は湧いてきました。しかしその不安より僕は期待のほうが大きかったです。

東京に向かい、そこから乗り継ぎ成田まで行き、ついに人生初の飛行機だあ～！と思っていた矢先、飛行機の整備不良のため空港でなんと4時間も待たされました。しかしその間に航空会社からソフトドリンク1杯無料と千円分の食事券をもらったので、空港を満喫することができ、これもいい体験だと思いました。

飛行機を降りてみると、日本とは全然違う別世界がそこにはありました。そこでようやく、カナダに来たんだなあと思いました。本当はこのまま観光だったのに、飛行機の遅れのせいでホテルに直行。そうして1日目は幕を閉じました。

今日は2日目。前半はフェリーに乗り、ビクトリアへ行き、ブッチャートガーデン、州議事堂、コロンビア博物館などに行きました。とても面白かったです。

そして待ちに待ったホストファミリーとの初対面。

僕は渉君と一緒に、ホストスチューデントは金髪と緑の髪をしたユリア君11歳の家でした。ホストファーザーのピーターさん、ホストマザーのマルシアさん。家にはバスケットゴールがありました。こうして僕のホームステイは始まりました。

ホームステイをして分かったことは、日本の文化がこちらにもきているということです。日本のコンビニもあつたし、日本食もありました。ホストスチューデントのユリア君は剣道と空手を習っていました。ここにも日本のスポーツ文化が根づいていると思いました。

まだまだ書きたいことはあるけれど、何よりこのチャンスを下さった方々、支えて下さった方々、本当にありがとうございました。

盛岡市立松園中学校 岩館 さくら

ビクトリアに行って感じたこと

私がカナダ・ビクトリア市に行って感じたことは、日本にいる時よりも時間の流れがゆっくりだということです。ビクトリアはきれいな家が建ち並んでいて、緑がたくさんあって、そして空が青く澄んでいてとてもきれいでした。また、ビクトリアに住んでいる人たちはとてもやさしくて日本で感じられないあたたかさもありました。

ビクトリアで過ごした8日間のうち、4日間はホストファミリーのスタークさんの家にホームステイをしました。スターク家はとってもユニークなホストファーザー、写真を撮るのが好きなホストマザー、そしてにぎやかな3人のホストスチューデントの5人家族です。ホストファミリーにはじめて会ったとき、お母さんはとてもやさしそうな人ですごく安心しました。その時、一緒にいた長女のアナはスーツケースは重いのに「大丈夫。私に任せろ。」と一生懸命運んでくれました。車の中ではアナやお母さんに色々聞かれて大変でしたがみんなが私たちを歓迎してくれているとわかって嬉しかったです。

そんな最初の日も日は落ちるのは遅くて、夜7時なのに夕方みたいに空が明るかったです。

その後の日も、近所の小さい子と走りまわって遊んだり、お母さんが運転する車で市内観光をしたり、夜までみんなでゲームをしたりと本当に楽しかったです。

帰る日が近づいた頃、私達はアナと一緒にParkをサイクリングしました。空は夕焼けでキレイだったし、通

りすぎる人たちはみんなであいさつしてくれるし、本当に心が気もちよくなって顔がニヤケてしまうくらい今までで最高のサイクリングでした。

別れる時に、アナに「もっと一緒にいたかった」と言われた時は、本当にそうしてもいいなと思いました。私はまた機会があったら今度は、自分の力でカナダに行ってアナをおどろかせてあげたいと思っています。この研修に参加できて本当によかったです。

お世話になった山崎団長や先生方本当にありがとうございました。

盛岡市立米内中学校 藤平 渉

感謝

僕にとってこのビクトリア研修はすごく楽しいものでした。しかし、自分なりに学んだこともたくさんあり本当に貴重な体験をさせてもらうことができました。

まず、1日目の出だしから飛行機が4時間も遅れましたが、これも経験と思い、空港でも色々な所を見て、学ぶことができました。飛行機からの景色も何千、何万mという所を飛んでいるわけですから、絶景としか言いようがありません。

ビクトリアに着いてからは当分時差になれず、少し苦痛でもありました。ですが、ホストファミリーは本当に優しく、もう少しここにいたいという気持ちが

最後、強くなりました。カナダの人達は本当に優しくかったです。お父さんは、たくさん話かけてくれたり、いろんな所に連れて行ってくれました。お母さんは、日本語のしゃべれる友達にテレビ電話をしてくれたり理解してくれようとがんばってくれていました。中学校の友達も優しく教えてくれたり、遊びに誘ってくれたり、本当にいい人ばかりでした。やっとなれたのに、やっとなったのに、と思う気持ちが日本に帰ってきてからも思い出されます。それくらい楽しくて、温かい気もちになれました。

僕たちの班は、プレゼンテーションで「食」について調べました。プレゼンテーション当日は、全員のノリがよく、本当に楽しかったです。あんなノリのよさも、欧米ならではと思いました。まずプレゼンテーションでは、日本食を知らない人が多く、「すし」

くらいだけ知られていました。逆にカナダの食は口があわないものもありましたが、ピザや魚は、さすがに本場なのか、とても美味しかったです。

今ここに書いたことはまだ思い出のほんの少しで、書きたいこともまだまだあります。それと同じように学んだこともたくさんありました。そしてとても楽しかったです。やはり、友達、仲間の良さ、女の子とも仲良くできました。僕は本当にバカでお荷物で何もできませんでしたが、こうやって支えてくれた仲間感謝します。そしてこのすばらしい研修に行かせてくれた両親にも感謝します。

盛岡市立米内中学校 若佐 礼奈

ありがとう

「もう一度、ビクトリアへ行きたい！」

最初は自分の英語力の悪さにショックを受け、早く帰りたいと思ったこともありました。

でも、このように思えたのはホストファミリーとの出会いがあったからです。

私がこの研修で一番楽しみであり、不安だったホームステイ。初めに迎えてくれたのは、ホストファーザーのGeorgeとホストスチューデントのJacksonでした。2人とも笑顔で優しく迎えてくれたので、不安はだんだん消えていきました。

ホストファミリーと過ごした時間は毎日が新鮮で本当に楽しかったです。お化け屋敷、ショッピングに連れて行ってくれました。最後の夜はパーティーを開いてくれ、最高の思い出となりました。仕事で忙しかったのに、ホストファミリーは私のためにたくさん楽しませてくれたことに心から感謝しています。

特に同年代のJacksonとは、たくさんの思い出があります。一緒にバスで登校した、セダーヒルミドルスクールには日本から見れば考えられないくらい自由がありました。でも自由の中にもしっかりとしたものがあり、みんな親切で心の温かさを強く感じました。友達になった同じクラスの子は会うたびにいつも声をかけてくれました。言葉が通じないときは嫌な顔一つせず、ゆっくり話してくれたり、ジェスチャーをしてくれたりしました。言葉が通じて楽しく話すことができたときはとても嬉しかったです。Jacksonがいつもたくさんのことを教えてくれました。そして、本当の家族のように接してくれたホストファミリーのみんな、大好きです！

本当にありがとう！！

あつという間に過ぎた一週間。でもたくさんの思いが心に詰まっています。そしてビクトリアの人の心の温かさをいつまでも忘れません。私もそんな人になりたいと強く感じました。

今回、英語がうまく通じず悔しい思いをしたので、もっと勉強してもう一度、ビクトリアのみなさん、ホストファミリーに会いに行きたい。そして伝えたいです。「ありがとう」の気持ちを。

最後に、研修のために協力してくださったみなさん、一緒に旅した団長さんをはじめ、先生方、団員のみんな、本当にありがとう。

盛岡市立玉山中学校 久保 美奈子

驚き、学んだこと

今回の研修で、ホームステイや授業見学、観光などをしてみて、たくさんの驚いたこと、学んだことがありました。

まず、驚いたのは、レストランなどで出される食事の多さです。飲み物も大きく、食べきろうと意気込んでみても音をあげてしまうような量でした。

また、授業見学では、1つのクラスの人が全員ほぼ時間通りに次の教室に移動しているのを見て、とても驚きました。休み時間中は廊下や外で話をしたり、おやつを食べたりしてるのに、ベルの音ですぐに移動し、廊下から人がいなくなる光景は衝撃的でした。

もちろん全員とはいえませんが、オンとオフがしっかりできている人が多いと感じました。

プレゼンテーションでは臨機応変に対応することや、大きな声を出さないと伝わらないことを学びました。

予想以上にクイズなどに対する反応が大きく、マイクを使っても声がしっかり伝わらないことがありました。また、時間もかかり、用意していた発表内容の一部を発表できませんでした。そういうときの対応の仕方を学ぶことができたと思います。

ホームステイでは言葉がほとんどわからない中でも「Yes」「No」をはっきりと言わないといけないと思いました。これは事前研修のときから言われていたことでしたが、いざやるとなると、うなずくなどあいまいに表現することしかできず、声に出すことが難しいと感じました。でも、ホストファミリーが質問の内容をかみくだいて言ってくれたり、ゆっくり言ってくれたりしたおかげで答える事ができたのもありました。

この研修全体を通して、言葉がほとんどわからない生活の不便さとビクトリアの人達の優しさを強く感じました。話すことはできなくてもある程度、生活することはできます。でもほとんど聞き取れず、話すことができないというのはとても、もどかしいものでした。

勉強で英語ができて、生活の中で使えなければ意味がないと感じました。でもその分ビクトリアの人達の優しさを感じられました。これからの学習・生活の中で今回学んだ事を活かしていきたいです。

盛岡市立玉山中学校 廣田 智代

カナダへの研修から

初めての海外旅行となったこの研修では、たくさんのことを学びました。

一回目の研修では、たくさん友達をつくれて、これからの研修が楽しみだと思いました。出発の日、飛行機が4時間遅れるハプニングがありましたが、みんなでUNOをしてすごしました。

カナダについて、1番に感じたのは、自然がたくさんあったことです。むこうには山も見えて、街もとてもキレイでした。市内見学では、日本と違う建物等をたくさん発見できました。

私が一番心配していたホームステイでは、私からはあまり話しかけられなかったけれど、ホストファミリーが私にわかりやすいように話してくれたので、少しですが、会話もできました。学校でも、ホストスチューデントが友達を紹介してくれて、バスの中や、学校ですれ違った時にいろんな人とあいさつをかわす事ができました。授業は何を言っているのか本当に分からなくて、日本語を少し話せる同じクラスの友達に本当にお世話になりました。他にも、帰りにホストスチューデントと一緒にショッピングに行ったり、家でゲームをしたり、会話はほとんど向こうから一方的なものでしたが、楽しむことができました。

しかし、私が一番注意していた健康管理ができず、胃の調子を悪くしてしまい、ご飯が食べれなくなってしまいました。胃薬でなんとかかなりましたが、たくさんの方々に迷惑をかけてしまいました。日本の家に連絡をしてくれた方、授業中なのに、世話をしてくれた先生、ご飯まで気を使ってくれたホストマザー、そして何よりも、観

光をしないで私の元に来てくれた友達、本当に、本当にありがとうございました。そしてすみませんでした。不安だらけだったホームステイは、最終日にはすっかり慣れ、「日本に帰りたいけどまだここにいたい。」という気持ちでいっぱいでした。別れの時に、「いつでも来ていいのよ。」と言ってもらえた時は本当に嬉しくて涙が止まりませんでした。

この研修で、日本とカナダの違いの他に、笑顔を忘れないこと、とにかくチャレンジすることを学びました。研修に参加する機会を下された方々、両親、先生方、そして最後まで私を支えてくれた友達に本当に感謝します。ありがとうございました。

盛岡市立見前南中学校 竹原 桜芽

フレンドリー！！

ぼくは、この7日間の研修で、たくさんのことを学びました。

まず、ホームステイです。自分の人生で、おそらく最初で最後となるであろうホームステイ。印象的だったのは、ホストファミリーがとてもいい人だったということです。初めて会ったときから、たくさん話しかけてもらい、初日から打ち解けることができました。

そして、英語を聞き取るために話しを一生懸命聞いているうちに、相手の目をみて話しを聞くことの大切さを学びました。こんなに熱心に人の話を聞いたのは初めてでした。

次に、学校です。最初に行ったときは、すごく緊張したけど、自由な雰囲気がすごくいいと思えて、割りと早めに慣れることができました。廊下を歩いている人に声をかけるだけで、気軽に返事が返ってくるのが、とても嬉しかったです。授業と授業の間の休み時間の時に、みんながお菓子を食べていたのには驚きました。りんごを食べている人もいたし、少しうらやましかったです。日本との大きな違いだなとおもいました。授業中、日本なら説教が始まるようなことでも先生がそんな怒っておらず、少しおどろきました。日本人とは、やはり違った考え方を持っているからだと思います。

街並みや人柄も、日本とは全然ちがうと思いました。

まず、街並みですが、自然がとても多いです。樹もいろんなところに植えてあり花もたくさんありました。

いたるところに動物がいたのも、素晴らしいことだと感じました。そして、ごみ箱も多かったです。日本も普通の道端に、ごみ箱をたくさん置けば、ポイ捨ては、今よりは減ると思います。次に、人柄です。日本よりとてもフレンドリーで、人ごみの中でも、少しぶつかったらすぐ「Sorry」や「Excuse me」と言ってくれました。カメラの前を通る時も、とても明るく言ってくれるので自然と笑顔で通してしまいます。日本より、小さなモメ事なども少ないのではないかと思います。

今回の研修は、細かいところまで、とても大きな思い出となりました。この経験を、自分の人生に活かしていきたいと思います。

盛岡市立見前南中学校 高橋 千陽

チャレンジすること

この研修に参加するとき、私はただ海外に行ってみたいという思いが強かった。私は飛行機に乗るのも、海外へ行くのも、ホームステイするのも、全てが初めてのことばかりだった。そのため期待も大きかったが、不安も大きかった。

出発当日、成田エクスプレスに乗った時から、私の初めてではじまった。成田空港に着いた瞬間、なぜか緊張した。手続きを緊張しながらも済ませ、あとは飛行機に乗るだけ。みんなで行く準備をしていると、出発が大幅に遅れるというアナウンスが、大体4時間遅れで飛行機は飛び立った。疲れが溜まっていたせいか、飛行機を降りてからはぐったりしていた。そんな感じで私は初めて海外の地に立ったのだった。

私がビクトリアで一番気に入った場所はブッチャートガーデンだ。こんなに美しい庭は日本にないのではないかと思います。花や緑にあふれている場所だった。ゴミ箱の上に花が咲いていたり、犬用の水飲み場があったり、誰もが来やすくなるような雰囲気だった。一番印象に残ったのは「金色の鼻の猪」だ。合格祈願！と言いながらみんなで触っていた。効果があるといいなあ。

私が研修の中で一番思い出になっている事は、やっぱりホームステイだ。私は、英語でコミュニケーションがとれるか心配だった。1日目は部屋を家族に案内してもらった。ホストマザーが私にたくさん話しかけてくれた。私は身振り手振りで、わかる英語をたくさん言った。ちゃんと通じたようで、嬉しかった。

お土産をわたしたとき、だるまをあげたらとても喜んでくれた。だるまの顔がツボにはまったらしく、しばらく笑っていた。買ってきたいがあったと思った。

楽しい時間はあっという間に過ぎていき、慣れはじめたところで、お別れとなってしまった。別れる時、ホストマザーに「あなたは家族だから、いつでもおいで」

と言われたときは本当に嬉しく、来てよかったと一番思ったときだった。

約一週間カナダに滞在し、多くのことに触れて思ったことは、何事にもチャレンジすれば何とかできるということだ。これからの生活、もっとチャレンジしていきたい。そしてまたみんなでカナダに行きたい。

盛岡市立上田中学校 鈴木 万達

収 穫

ビクトリア研修の機会をいただいたことに、大変感謝しています。研修を終えて、自分には語学力と積極性が重要だと感じました。これが一番の収穫です。

ホストファミリーと話す時、言いたいことはあるのに、伝えることのできないもどかしさを感じました。笑顔で話しかけてくれて、内容もわかるのですか、自分が考えた返事を英語にすることができません。文字で英語を理解することも大切ですが、相手の表情を見て言葉で表現する力を伸ばしたいと思いました。

研修先の学校では、カナダの生徒の積極的な態度が印象に残りました。様々な場面で自分で判断し、決めたら快く行動しているところが魅力的で、自分もこのように変わっていきたくて強く感じました。

ステイ先でも、自分の意見を伝えることの大切さを感じました。初日に「洗濯をしますか？」と聞かれて洗濯物がまだたまっていなかったため断りました。二日目にまた、声をかけられるのを待っていたのですが、その日は洗濯の話はできませんでした。三日目も同様です。とうとう、四日目に自分から「洗濯をしたい」と申し出て、洗濯をすることができました。小さなことですが、自分から行動しないと相手に伝わらないということを学ぶことができました。

また、ホストファミリーの、人との会話を大切にしている姿勢も印象に残りました。何かをしていて、体は違う方向に向いていても、顔は相手のほうを見て話したり、聞いたりしているのです。そしていつも、口の端が上がっていて、笑顔を絶やさないのです。

このように、今回の研修は、自分に何がたりないか

気づく機会となりました。これからは、私たち日本人の持つ思いやりや礼儀正しさを大事にしながらも、自分の判断を尊重して、決めたらすばやく行動するカナダの生徒の長所も身につけていき、積極性をのばしていきたいと思います。また、思ったことを相手に伝えるため、語学力も向上させたいと思います。

同時に、言葉が通じなくても、笑顔の持つ力が大きいことをこの研修で学びました。いつも、柔らかな表情で話しかける人を受け入れ、安心させるような雰囲気を目指していきたいと思います。

盛岡市立北松園中学校 工藤 隆史

コミュニケーション

今思うと、とても長かったようで、短かったカナダでの一週間。3回目となる海外でしたが、ワクワクすると同時に、心配なこともありました。僕は、カナダに行く前と行った後では、考え方がすごく変化しました。行く前まではコミュニケーションとは、相手と会話し、交流することだと思っていました。しかし、カナダへ行って、全く違っていただけに気づきました。カナダでは、ホームステイをしましたが、1日目は言葉を意識して、相手に話しかけましたが、自分の言っていることも、あまり通じず、また、相手が返事を返してくれても、速すぎて、何を言っているのかさっぱりわからなくて、僕はとてもあせりました。しかし、2日目は、無理せず、表情やジェスチャーを取り入れ、ただ話し笑いあい、こんなことをしているうちに僕は、相手の言っていることが少しずつ聞き取れていることに気がつきました。それからは、慣れてきて、とてもたくさんの事について互いに話し合う事ができました。

それは、まさに僕が目標にしていた、コミュニケーションということでした。コミュニケーションというのは、ただ話すことだけではなく相手とよくわかり合い、

互いの心と心を通じ合わせるという事だと思いました。

もうひとつ気づいたことがあります。カナダでは、日本と違い、返事は「Yes」か「No」の2つしかなくあいまいな返事がありません。このことは自分にとって、物事を判断する能力を鍛えてくれることにつながりました。

た。

このように、僕はカナダでたくさんのことについて学び交流する事ができました。

日本の文化とカナダの文化は、外からみれば、あまり変化のないものでしたが、学校や、ホームステイや市内見学で異文化ということについて見たり、体験でき、国と国の異文化を深く学ぶことができました。

本当によい体験ができました。これらのことは、これからの自分に大きく生かせる体験だったと思います。

そしてこの研修は、周りの人達の支えがあってこそ体験できたものだと思っています。この研修に関わってくださった方たちにはとても感謝しています。本当にありがとうございました！！

盛岡市立黒石野中学校 鎌田 碧衣

ありがとう

思えば、たった8日間という短い研修の中で、私は多くの人々と出会ってきました。そして、その度に、心が広くなり、優しくなれたような気がします。

それだけ、「人との出会い」には大きな力があると思います。どんな体験をしたのか・・・それは深く心に残り、自分の成長の糧となります。お互いにかけがえのない絆が生まれ、人と人とを繋ぎ、世界に大きく羽ばたくことができるのです。

私は、滞在中のある出来事から、そのように感じました。今でも決して忘れることはできません。

ホストファミリーと過ごす最後の夜。私達は、礼奈のファミリーと一緒にパーティをしました。

短い間だったね、と思いつ話したり、料理を食べたり、皆でテレビを見たり。楽しい時間はどんどん過ぎていきました。私も料理を食べながらホストファーザーのルースと話をしたり手伝いをしていました。

その時、ルースが何やら大きなアイスクリームを持ってきて、皆でバースデーソングを歌い始めたのです！

実は、私は、2日後に誕生日を控えていました。その事を伝えたのは、初日に何気なく言っただけなのに、ホストファミリーはしっかり覚えてくれていて、しかもお祝いまでしてくれたんです。

嬉しくて涙が止まりませんでした。

少し前までは赤の他人だったのに、一度出会えると、まるで家族のようにになれる、そんなビクトリアの人々に感謝の気持ちでいっぱいでした。

最後に、とても親切だったホストチューデントのリアム、面白かったルース、優しくしてくれたレイチェル、かっこよかったミカエラ、笑わせてくれたジョージ、明るかったスーザン、かわいかったウィニー、本当にありがとう！！皆の思いやりのおかげで、言葉の壁を越えて本当の家族みたいになれました。

あ、そうだ。一緒に行動した礼奈、歌純、真理子さん、4人で行動できて本当に楽しかったです。(たそがれたり踊ったりetc) これだって、「人との出会い」

私の研修は、「人との出会い」で成り立っていました。支えてくれた全ての人々に「ありがとう」

盛岡市立下橋中学校 井上 華寧

おらかなカナダ人

飛行機になかなか乗れず、少しイライラしていた時、のことでした。アナウンスが入ると、日本人は怒り、カナダ人は笑いました。何も怒ることはないんじゃないか、と。

カナダ人はめったに怒りません。むしろそれを笑いに変えてしまうくらいです。

日本人は、どうでしょう。時間や心に余裕がない人が多く、忙しい毎日を送っています。そのせいか、いつもイライラしていたり、笑顔を見せない人もいます。

また、日本人は感情を素直にあらわすことが少ないです。だから、笑顔でも本当はそんな気分ではないこともよくあります。

それに比べて、カナダ人は素直です。嬉しいときは嬉しい、悲しいときは悲しい、楽しいときは楽しいと体全体で思いを表現します。だから、思いをためこむ日本人とちがっておらかなのだと思います。

私のホストファミリーも、おらかな人たちでした。

ホストブラザーの Liam は、最初の頃は無口でうまくコミュニケーションがとれませんでした。でも彼はとてもユニークで、みんなを楽しませるのが大好きでした。また、Liam にはお姉さんがいましたが、日本の姉弟とは違いとても仲良しでした。私には弟がいるのですが、いつもけんかばかりしているので、彼らが少しくらやましくなりました。ホストファーザーはおおらかなけれど、ごまかしのない人でした。初めて会って名前を言った

とき、私は聞きかえされました。日本では名前が聞きとれなくても、名前を呼びさえしなければ良いので少し戸惑いました。でも、彼が私の名前を知りたかったからそのように聞きかえたのだと分かって、とても嬉しかったです。

日本人は、礼儀正しくきちんとしていて、良い所はたくさんあります。でも、感情をおし殺して自分の思いをうまく伝えられないという短所もあります。カナダ人のように、素直に感情表現ができると、日本人はさらに良くなれると思います。

私はこれから、日本人の礼儀正しさやきちんとした所、カナダ人の素直な感情表現どちらも大切にしていきたいと思っています。

盛岡市立河南中学校 菊池 真理子

かけがえのない8日間

「本当に夢のような日々だった。」

これは、私が研修を終えて、真っ先に頭に浮かんだ言葉です。8日間という時間は、いつもの学校生活ではあっという間に過ぎてしまいますが、この研修の中では、2～3日だったようなそれでいて1ヶ月くらいだったような不思議な時間でした。

私が研修の中で、1番楽しみで不安だったのがホームステイでした。ビクトリアはどんな街で、人々はどんな物を食べていて、どんな暮らしをしているのだろうか？という好奇心は日増しに大きくなっていきました。

しかし、それと同時に、英語でのコミュニケーションに自信もなく、実際にホストファミリーと対面する瞬間まで「Cedar Hill Middle Schoolの生徒がいる家庭らしい」という情報しかなかったため、不安も大きくなっていました。

ですが、実際にホームステイをしてみて、不安になる必要は全くなかったとすぐに気づきました。ホストファミリーは、優しく明るい人たちで、私のことをあたたかく迎え入れてくれました。

ステイ中には色々な所へ連れて行ってもらいました。

ホストファミリーには3人の娘さんがいて、それぞれの習い事についていきました。私が見学したのは、バレーボール、サッカー、ウクレレ、合唱でしたが、その他にもピアノやウッドベース、吹奏楽もやっていて、忙しそうでしたが、とても楽しんでいました。

また、カナダの「Sushi」を食べに行ったり、一緒にTVを見たりとたくさんの思い出ができました。

もちろん、意思の疎通が100%とれたわけではありません。頭の上に？が浮かぶことは何度もありました。でもそんな時、家族のみんなは笑顔で「大丈夫。」と、分かりやすく言い直してくれ、その優しさが嬉しかったです。

今回、私がこの研修を通して学んだことは、気持ちが何よりも大切だということです。日本語と英語という大きな言葉の壁があっても、お互いに“伝えたい・分かり合いたい”という気持ちがあれば、問題なくやっていけました。これからの人生の中で私は、様々な人に会おうと思います。その時は、今回学んだことを生かして、交流を深めていきたいです。

私にこのような素晴らしい機会を与え、支えてくださった皆様、本当にありがとうございました